

---

# 僕の夏休み

神村律子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕の夏休み

### 【Nコード】

N6752H

### 【作者名】

神村律子

### 【あらすじ】

ホラー作家の編集者である僕は、その作家の別荘に呼び出された。

嫌だ。

何故こんなことになったのか？

僕はあるホラー作家の担当編集者。

今、その作家の別荘に向かう途中だ。

その作家の「ご命令」で、急遽夏休みを取らされ、馳せ参じた次第である。

何が嫌なのかと言うと、その作家があまりにも悪趣味なのだ。

作品もエログロものばかりで、僕は彼女のホラーを「嘔吐モノ」と呼称している。

そんな作風だから、恐らく別荘も気色の悪い化け物屋敷風だろう（いや、化け物屋敷そのものかも知れない）と思っていた。

ところが、だ。

着いてみて、別の意味で嘔吐しそうになった。

彼女の顔はお世辞にも綺麗ではない。

むしろ職業にピッタリの顔をしている。

だからこそ、「化け物屋敷」を想定していたのだ。

でも別荘は「お姫様」風だった。

どこかの国の城をイメージしたのか、ニヨキニヨキと伸びた塔がいくつも見える。

そんな別荘の二階のバルコニーに、彼女はいた。

「いらっしゃーい。待ってたわよ、大木君」

その怖い顔を笑顔でいっぱいにして、彼女は手を振った。

しかもフリルのたくさん着いたドレスを着ている。

恐らく、「お姫様気分」なのだろう。

「ど、どうも。お招きに預かり、光栄です」

僕までおかしい。まるでしもべのような言葉遣いだ。

「今、そっちに行くわね」

いや、その距離で十分怖いですから、それ以上近づかないで下さい。

そう言いたかった。

でも言えない。

まずい。

噂は本当だったのかも知れない。

彼女は「若い編集者好き」で、別荘に招き「頂いて」「しまっらしいのだ。

今からでも逃げようかと思っていると、ご本人が到着してしまっ  
た。

「お待たせエ。さ、入って頂戴」

僕は彼女に手を捕まれ、全身総毛立つのを感じた。

僕は半分失神したような状態で、それからの何時間かを過ごした。

彼女の料理は豪華で、全部自分で作ったとか言っていたが、味も  
わからないまま、口に運んだ。

やがて食事も終わり、メイドや執事達が姿を消した。

まずい。

完璧に2人きりだ。

僕はある意味死を覚悟した。

「ねえ。私の秘密、知りたい？」

彼女が小首を傾げて尋ねた。

全然可愛くない。むしろ怖い。

「は、はい」

そう答えなければ殺されると思った僕。情けない。

「そう。だったら、教えてあげる」

そう言つと、彼女は自分のアゴを掴み、グイッと引き上げた。

「ヒイッー！」

僕は腰を抜かして、椅子から転げ落ちてしまった。

彼女の顔がベロンと剥けてしまったのだ。

「どう？　これが本当の私よ」

もつと驚いた。

その下から現れたのは、映画女優も真つ青の美女だった。

「私はホラー作家デビューする時、この特殊メイクで醜い顔になったの。その方が話題作りになると思ったから」

「はア」

僕は転がり落ちたままの態勢で話を聞いた。

「どう？ 私の素顔は？」

「き、綺麗です」

「ありがとう」

僕は彼女に誘われるままに寝室に行った。

そして夢のような一夜を楽しんだ。

彼女は最高だった。

僕は知らなかった。

彼女の昔の写真が寝室の書棚にあるのを……。

それさえ見ていれば、一夜を共にする事はなかったろう……。

特殊メイクの顔こそが、彼女の本当の素顔だったのだから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6752h/>

---

僕の夏休み

2010年10月12日20時03分発行